

フン氣が違つてる譯でもないなと感心したやうな顔して福田正夫は俺を見た。

汽車に乗り込んでから洋服姿の佐野製裘美が居たので「景氣は何うだい」と新吉は調子づいた向ひ合つて掛けたのが尾瀬敬止だつた。

ロシヤの話をした。

發車する間に新吉は、昂奮して大きい聲を窓から放り出した。

腹が減つて來た。食堂へ行つてライスカレーを食ふ。福田正夫とサイダーや酒を飲んだ。

頭が燃え出して、耳がヒキツル。

「發狂成金だとか冷やかすが、俺は貧乏なんだ。

君も貧乏なのか。

ダ、を下らねい社會詩人なんかとならべてくれるなよ」

新吉は八釜しくて眠れないと新居格は言つた。

饞舌りつゞけた。

六々眠れなかつた。